

2022年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：組織統治論研究	
担当教員名：藤井 一弘	
授業科目概要： コーポレート・ガバナンス（近年は「企業統治」と訳されることは、むしろ少ないが）は、日常的にふれる言葉になっているのに対して、「組織統治」はそのようにはなっていない。後者は、多数の人には言葉としては奇妙に感じられるかもしれないが、企業に限らない組織体の統治を言う。中央政府、自治体の統治というならば、むしろ馴染みのあるものでもある。加えて、ガバナンス（governance）も「統治」と訳せば、物々しい（いかめしい）が、govern の原義は「船の舵を取る」である。そう考えると、方向を誤らないように組織体を導くには？と問うことが、この科目の内容となる。このように考えれば、ごく常識的な問題意識のもとにある科目が、「組織統治論研究」である。	
履修上の留意事項： 上記したように、この科目は、企業に限らない組織体の方向付けを考えることを目的としているが、企業のガバナンスにふれることが、多くなると予想される。その点で、企業経営について、基本的な考え方を身につけていることが望まれる。ただし、事前の必須条件ではありません。履修しながら学習してもらえば結構です。	
教科書・参考書（参考文献）	
書名：事前には指定しません。履修者の関心、および予備的知識を勘案しながら、必要に応じて示します。 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
評価方法及び判定基準： 講義科目ではありますが、履修者自身にも講義時間内に発表してもらいます。その内容と、期末に課すレポートで評価します。判定基準は、履修規程にあるとおりです。	
授業目標及び進め方： 「授業科目概要」にも記したように、組織体の方向付けを誤らないようにするための、少なくとも必要条件を、授業の中で修めてもらうことが、大きな目標である。したがって、進め方としては、上記「評価方法」にも記したように、担当者の講義の他に、履修者の発表、それらについての履修者と担当者の間での質疑応答が中心となる。	

第 1 回	テーマ：履修者のこの科目への関心と予備的知識を確認する。 内 容： 教科書／参考書
第 2 回	テーマ：「組織」という概念の確認。 内 容： 教科書／参考書
第 3 回	テーマ：「ガバナンス」という概念の確認。 内 容： 教科書／参考書
第 4 回	テーマ：企業 (corporation) において「ガバナンス」は、どのように捉えられてきたか (1)。 内 容： 教科書／参考書
第 5 回	テーマ：企業 (corporation) において「ガバナンス」は、どのように捉えられてきたか (2)。 内 容： 教科書／参考書
第 6 回	テーマ：企業 (corporation) において「ガバナンス」は、どのように捉えられてきたか (3)。 内 容： 教科書／参考書
第 7 回	テーマ：「コーポレート・ガバナンス」を取りまく現状。 内 容： 教科書／参考書
第 8 回	テーマ：組織一般に、「コーポレート・ガバナンス」における「ガバナンス」を適用する際の問題点 (1)。 内 容： 教科書／参考書
第 9 回	テーマ：組織一般に、「コーポレート・ガバナンス」における「ガバナンス」を適用する際の問題点 (2)。 内 容： 教科書／参考書
第10回	テーマ：組織一般に、「コーポレート・ガバナンス」における「ガバナンス」を適用する際の問題点 (3)。 内 容： 教科書／参考書
第11回	テーマ：組織一般に、「コーポレート・ガバナンス」における「ガバナンス」を適用する際の問題点 (4)。 内 容： 教科書／参考書
第12回	テーマ：最近のトピックスを取り上げる (1)。 内 容： 教科書／参考書
第13回	テーマ：最近のトピックスを取り上げる (2)。 内 容： 教科書／参考書
第14回	テーマ：最近のトピックスを取り上げる (3)。 内 容： 教科書／参考書
第15回	テーマ：全体のまとめ。 内 容： 教科書／参考書